香君（こうくん） 上・下

上橋菜穂子（うえはしなほこ）作　文藝春秋（ぶんげいしゅんじゅう）

遥（はる）か昔（むかし）、飢饉（ききん）を救（すく）うために香君（こうくん）が与（あた）えた〈奇跡（きせき）の稲（いね）〉オアレ稲（いね）は、山間（やまあい）の小国（しょうこく）ウマールを天地（てんち）の恵（めぐ）み豊（ゆた）かな帝国（ていこく）にした。香（かお）りで万象（ばんしょう）を知（し）り、人々（ひとびと）を導（みちび）くという香君（こうくん）は、生（う）まれ変（か）わりを繰（く）り返（かえ）し、代々帝都（だいだいていと）の香君宮（こうくんぎゅう）で活神（いきがみ）に祀（まつ）り上（あ）げられた。オアレ稲（いね）を拒（こば）み王座（おうざ）を追（お）われた祖父（そふ）を持（も）つ十五歳（じゅうごさい）の少女（しょうじょ）アイシャは、香（こう）君（くん）オリエと出会（であ）う。

災（わざわ）いの気配（けはい）を感（かん）じながら、天（てん）と地（ち）に満（み）ちている〈香（かお）りの声（こえ）〉を聞（き）く力（ちから）で、異郷（いきょう）からもたらされたオアレ稲（いね）の秘密（ひみつ）を探（さぐ）る少女（しょうじょ）の物語（ものがたり）。